

アレセア湘南高等学校 年間指導計画

科目名	課題探究		学年・クラス	高3 探求コース 選択
単位数	2単位	使用教材	キュリオスクール	

1 授業の進め方

高2から行っている個人探究のサイクルを回し、より深い探究を行う。また、この個人探究を活かし、総合型選抜や学校推薦型選抜の対策を行っていく。校内探究発表会にて、高校での探究のまとめを行う。

2 授業計画

	学習内容
1 学期	個人探究で扱うテーマ、問い、仮説を決定し、外部機関やクラスのメンバーからのフィードバックをもらう。その際、自身の希望する大学、学部学科、専門学校とのマッチングを意識する。探究のプロセスを回していく。
2 学期	夏休みを通じて、行った探究のまとめを行い、総合型選抜や学校推薦型選抜の武器にしていく。また、探究の成果を最終プレゼンとして、クラスや異学年の生徒に共有する。

3 授業の狙い

現在の学校教育では、「問いは教師が設定する」「正解は決まっている」「評価は点数や順位で行われる」という構造が主流である。

その結果、生徒は、「自分で問いを立てる経験が乏しい」「正解がないと考えられない」「指示がないと動けない」という状態に陥りやすい。

一方、社会では、「問いは与えられない」「判断の責任は自分が負う」「正解は存在しない」という構造である。

そして現在、教育を支えてきた社会の前提条件そのものが大きく変化している。「情報化と生成AIの急速な発展」「人口減少・少子高齢化」「グローバル化による価値観の多様化」「環境問題という不可逆的課題」これらに共通するのは、「正解があらかじめ用意された世界ではなくなった」という点である。にもかかわらず、学校教育の多くは依然として「正解を覚える」「評価基準に合わせて最適化する」という義務教育型の学びを高校段階まで延長している。

本来の学びとは、「知的好奇心」を刺激され、各々が知りたいと思う領域を納得いくところまで情報収集し、実行に移すことなどではないかと考え、高校3年生の個人探究活動を進めていく。探究のプロセスは、「問いの生成」「仮説検証」「情報収集」「他者との対話」「振り返り」「修正」であり、このプロセスは、社会における意思決定そのものである。

探究とは、社会に出てから突然求められる判断を、学校という安全な環境で繰り返し経験する学びである。